

定例市長記者会見録

日 時：12月23日(木) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、中部経済新聞、共同通信社

本日の案件は5つです。

1番目は「ハース（厚生労働省コロナ情報管理システム）の活用 ～第6波でも自宅療養中の皆さんを保健所DXで見守ります～」です。本市の第5波では、7月後半から9月にかけて、9月4日の115名をピークに多くの新規陽性者が発生しました。この間、保健所から自宅療養者の方へ、健康状態を電話で確認していましたが、急激な感染拡大により保健所業務がひっ迫し、状態の把握が遅くなるという課題が生じました。そこで第5波の終盤から、厚生労働省のシステム「ハース」の個人版である「マイハース」を導入しました。保健所から携帯電話番号が分かる療養者に対し、システムのID等をショートメールでお知らせします。療養者が、体温やSpO₂（経皮的動脈血酸素飽和度）など、必要な数値をシステムへ入力していただくことで、保健所が療養者の健康状態を正確に把握します。また、診療した医療機関や入院機関においても、システムから療養者の症状の経過を把握することができます。第5波後半のサンプル調査では、9月11日の週にショートメールを送った方の約半分の方に、9月18日の週では約4分の3の方にご利用いただけました。仮に第6波に移行した場合でも感染の波を低く抑えられるよう、今後はこのマイハースの積極的な利用を呼び掛けてまいります。

2番目は「GIGAスクール・プロジェクトで『いちみん相談室』サイトの開設」です。子どもたちの悩み相談を、GIGAスクール構想で整備した学習者用タブレット端末や自宅のパソコン・スマートフォンから行うことができる「いちみん相談室」サイトを開設します。学校の先生に相談するページや、先生以外の人に相談できる機関を紹介するページ、ネットトラブルへの対応策を紹介する外部サイトを案内するページを配置しています。運用開始は1月下旬の予定です。他の自治体では専用アプリを購入し、運用しているところもあるようですが、本市ではGoogleの基本機能を活用し、予算措置することなく教職員が仕組みを構築しました。子どもたちがデジタル社会で生きていく上での自衛策やトラブルへの対処法を身に付けてもらえるよう、相談窓口と合わせて「いちみん相談室」サイトを立ち上げます。

3番目は「一宮市の農産物『2022アムール・デュ・ショコラ』に採用」です。4年連続で一宮市の農産物を活用していただけます。今回は、一宮商業高校地域貢献部の生徒さんが作ったはちみつが採用されました。1月11日に同校で試食会を行います。

4番目は「『NHKスポーツパーク in 一宮 松岡修造のテニスパーク』を実施」です。NHKさんには、90周年記念事業の際にも松岡さんに関するイベントを行っていただいで以

来、10年越しの実施となります。

5番目は「子育て世帯への臨時特別給付金と合わせた市独自施策」です。市民の皆さんからの関心も高く、さまざまなご意見を頂きました。一番多かった「5万円はクーポン券ではなく現金支給で」というご意見と合わせ、どの世帯も所得に関係なくコロナ禍で大変なため「所得制限を無くしてほしい」というご意見も多く寄せられました。国の担当大臣からも、市の独自施策を妨げない旨の発言もありました。児童手当は、所得制限のある方にも、児童一人当たり1万円のうち2分の1の5,000円が支給されますし、コロナ禍でも税収が落ち込まず、12月議会に提出した補正予算では、財政調整基金に積み立てを行うこともできています。我々は、『子育てするなら一宮』と地方創生の第一に子育てを掲げてまいりました。こうしたことを総合的に勘案した結果、国の制度では支給対象から外れる所得制限のある5,000人の方にも、児童一人当たり5万円を支給することにしました。国の制度から外れる独自施策については、1月下旬から2月上旬頃に申請の案内を開始する予定です。国の支援に比べれば少額ですが、市独自の支援策を通じて、子どもたちの学ぶ環境や育つ環境の改善につながることを期待しています。

以上、本日の説明でございます。

質疑応答の概要

■ハースス（厚生労働省コロナ情報管理システム）の活用

～第6波でも自宅療養中の皆さんを保健所DXで見守ります～

(記者) ハーススの他地域での活用状況はどうですか？

(市長) 保健所の実務を担っている職員の間では、ハーススの有効性は認識されているようです。他の中核市や政令市のことですので確定的なことは申し上げられませんが、第6波に向けて活用していくと思います。他市に先駆けて一宮市は、電話ではなくスマホをお持ちの方はシステムの利用を、広く市民の方に呼び掛けます。

(記者) ハーススは保健所と病院間の情報連携だけでなく、患者さん個人とのやり取りもできるのですか？

(市長) はい、そうです。また、クリニックと情報連携できる機能もあります。

(記者) 入力しない人には、電話対応されるのですか？

(市長) はい、そうなります。入力していただくと、体温や酸素飽和度で検索できるので、危険な状態にある患者さんを助けることになりすし、我々の業務の効率化にもなります。

(記者) ハーススの利用については世代間で差があると思いますが、これからはデジタルに切り替えたいということですか？

(市長) 人にしかできない仕事も当然あります。全ての方に電話で状況確認を行うと時間がかかり重篤化している方の発見が遅れてしまう恐れもあります。デジタルを利用できる方がデジタルへ移行していただければ、保健所の人手に余裕ができますのでよ

り効率的・合理的になると思います。

■一宮市の農産物 「2022 アムール・デュ・ショコラ」に採用

(記者) 一宮商業高校さんが作られたハチミツとファーム大島さんのイチジクの特徴はどういったところですか？

(市長) ファーム大島さんが作るイチジクは、洗練された上品な甘さが特徴です。

(担当) 一宮商業高校さんが作るハチミツは、粘度が高く花の香りが優しいのが特徴です。

(記者) 一宮商業高校さんは、ミツバチを飼われているのですか？

(担当) 校舎の屋上で飼われています。

■子育て世帯への臨時特別給付金と合わせた市独自施策

(記者) 財源は、財政調整基金ですか？

(市長) いいえ、財政調整基金の補正予算について申し上げたのは、税収が見込みよりも落ち込んでいないことを説明するためです。12月補正予算には入っていませんので、年明けに市長専決処分に対応します。

(記者) この給付金は、児童手当の支給口座に振り込むのですか？

(担当) 申請された口座に振り込みます。

(記者) 振り込みの時期は、いつですか？

(担当) 1月下旬から2月上旬に申請を受け付けますので、2月からの振り込みになります。